

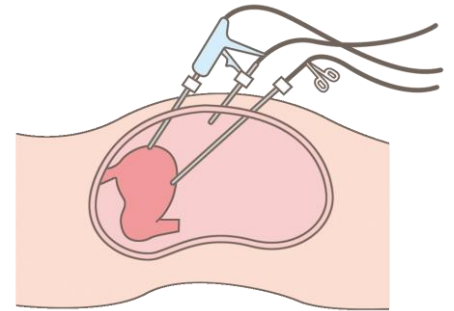
## 腹腔鏡・内視鏡合同手術 (LECS)

～外科医と消化器内科医のコラボレーション手術～

**L**aparoscopic **E**ndoscopic **C**ooperative **S**urgery

外科 坂部 龍太郎

低侵襲手術である腹腔鏡下胃切除術は早期胃癌に対する標準治療となりつつあり、多くの病院で行われるようになりました。また胃ポリープや粘膜に限局する早期胃癌に対してお腹を切ることなく胃カメラで病変を切除する内視鏡的切除術も増加しています。これらの治療は外科医もしくは消化器内科医（内視鏡医）のいずれかが治療にあたりますが、最近では外科医と消化器内科医が共同で行う腹腔鏡・内視鏡合同手術と呼ばれる新しいコンセプトの手術が開発され普及してきました。Laparoscopic Endoscopic Cooperative Surgery という英語スペルの頭文字をとって、LECS（レックス）と呼ばれています。



具体的には、全身麻酔下に外科医が腹腔鏡でお腹の中を観察した状態で、消化器内科医が胃カメラで病変の確認と一部の切開を行い、その後外科医が腹腔鏡下に病変の摘出と胃壁切開部の縫合閉鎖を行います。胃の内腔に発育する病変は、胃の外から観察する腹腔鏡操作だけでは確認が困難であり、正常な胃壁も過剰に切除してしまうことが問題でしたが、LECSでは胃カメラで胃の中から病変を確認

しつつ切開するため、胃壁の切除範囲を最小限とし、術後に胃の変形が少なくなる利点があります。お腹の傷も 5mm～1.5cm の穴が数か所だけですみ、術後の回復も早く 1 週間～10 日で退院可能となります。現時点では胃粘膜下腫瘍（消化管間質腫瘍など）が良い適応となっていますが、今後の進歩により胃癌に対しても適応が広がることが期待されています。

文字通り外科医と消化器内科医が協力して治療にあたるコラボレーション手術、当院でも患者さんにやさしい最善の治療を目指して取り組んでいますので、胃の病気でお困りの方は、ぜひご相談ください。



### —病院の理念—

高度良質の医療  
最善の奉仕  
研鑽と協調  
地域医療の支援

### —病院の基本方針—

- 一 良質で、適切な医療の提供に努めます
- 二 患者様の権利を尊重し、満足・安心・信頼を追求します
- 三 新しい知識と技術を積極的に習得し、常に質の高い先進的医療を行います
- 四 地域の中核病院として、地域社会の要請にこたえる医療を提供します
- 五 職員が意欲を持って働ける病院をめざします
- 六 次代を担う有能な医療従事者の育成をめざします
- 七 専門的ながん医療の提供に努めます
- 八 国内での医療救護活動に積極的に参加します

# 看護部お仕事紹介⑩東8階病棟

## 東8階病棟

東8階病棟師長 伊藤 理香



東8階病棟は、整形外科病棟で、骨・関節・靭帯・腱などの病気やケガによる損傷の患者さんが入院されている病棟です。

思いがけないケガによる入院・手術を受けられる患者さんは、高齢で複数の既往歴がある方が多いため、手術までの待機日数を減らすとともに、手術に伴う合併症の予防や積極的な痛みの緩和、療養環境の調整に力を入れています。

そして入院時より、退院後の生活について考え、患者さんやご家族の方のご希望に添い、安心して退院できるように多職種で取り組んでいます。

毎週、医師・看護師・理学療法士・医療ソーシャルワーカー・事務担当者による合同の総回診では、患者さんご自身にも参加していただき、ベッドサイドでの病状評価や治療方針の再検討を行っています。また、月に1回、病院長にも参加していただき、院長総回診も行っています。

近年の調査で、介護が必要となった主な原因として、「認知症」と「骨折・転倒」は増加傾向にあることがわかっています。健康寿命を延ばすためにも、私たちは、骨折されて入院された患者さんが、再び骨折されて介護が必要な状況になることを防ぐために、再骨折予防に取り組んでいます。日頃の転倒予防のための生活指導や、骨粗鬆症の患者さんには、骨粗鬆症の治療が継続していけるように患者さんに合わせて指導を行っています。

さらに、骨粗鬆症については昨年より、整形外科・腎臓内科・歯科・薬剤師・栄養士・リハビリ・看護師でチームとなり、2ヶ月に1回程度、地域の方々を対象に骨粗鬆教室を開催しています。是非皆様にも参加していただき、骨折しない、強くて質の良い骨作りに一緒に取り組んでいきましょう。



### —患者さまの権利—

- 一人の尊厳は尊重されます
- 平等な医療を受ける権利を有します
- 最善の医療を受ける権利を有します
- 自己の病状や治療等について知る権利を有します
- 自己の診療については、検査・治療の内容等について十分な説明を受け理解し、自己決定をする権利を有します
- 診断や治療に関して他の医師や医療機関の意見を求めることができ、その上で診療の撤回ができます
- 臨床試験や治験等への参加については、その内容、予想される危険性、従来の治療方法との違い等について十分な説明を受け、自己決定をすることができます
- プライバシーの権利を有します